

# 吉川の風

東広島市立吉川小学校  
令和8年1月7日  
No.21 校長 沖 秀治

## 新年のご挨拶

保護者、地域の皆様、明けましておめでとうございます。新しい年2026年が皆様にとってよい年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、早いもので今年度もあと3カ月となりました。後期後半始まりの式で、子ども達には「6年生は卒業証書授与式の日、1から5年生は修了式の日、最後の『さようなら』の挨拶をして教室のドアを出る時に、『楽しい小学校生活だったな』『がんばった一年だったな』 そう思えるよう、一緒にがんばっていこうね。」という話をしました。

教職員一同、心を一つにして、子ども達のさらなる成長のために取り組んでまいります。今年もどうぞよろしくお願いたします。

## 後期後半スタート！ 元気に登校！？

「どんな表情で登校してくるかな？」 それを見るのが楽しみで、玄関先に立って子ども達を迎えました。「元気いっぱい やる気満々」「もう少し冬休みがあったらなあ」等々、子ども達はいろいろな表情で登校してきました。さあ、後期後半のスタートです！



## 春の七草

今日、1月7日は「七草の節句」です。3月3日の「桃の節句」や5月5日の「端午の節句」に比べると馴染みが薄いかもしれませんが、「七草粥を食べる日」と言えば、ピンとくる方も多いと思います。

「七草の節句」は「人日の節句」とも呼ばれ、その起源は古代中国にあります。古代中国では、元日から七日目に、七種の若菜を使った温かい汁物を食べて無病息災を祈っていたそうです。

また日本では、古くから1月7日を大切な節目と考え、平安時代には、正月最初の子の日に若菜を摘み、健康を願う「若菜摘み」の風習があり、これが中国の「人日の節句」の行事と結び付いて、七草粥の習わしが生まれたとされています。

七草粥は、春の七草を入れたお粥をいただき、一年の無病息災を願うものです。雪の下から芽吹く若菜の力を取り入れる他に、正月料理で疲れた胃腸を休める意味もあるのだとか。

ところで、春の七草以外に、秋の七草があるのをご存じですか？ 万葉集にも詠われており、昔から日本人に親しまれてきた植物です。

菘の花 尾花葛花 なでしこの花

をみなえし また藤袴 朝顔の花 山上 憶良

尾花はススキ、朝顔はキキョウのことだと言われています。春の七草のように粥にはしませんが、お月見の鑑賞や、ススキ以外は薬用に利用されています。その他に、夏の七草もあるようです。

最近、地球温暖化が進んでいるためか、四季のうつろいを感じにくくなっていますが、それでも「四季を感じる心」や、日本に古くから伝わる「伝統」を大切にしたいと思う今日この頃です。



せり  
なずな  
なずな  
ごぎょう  
すずな  
はこべら  
すずしろ  
ほとけのぎ  
春の七草  
三枝  
宜之